



2021-2022 年度 藤沢ロータリークラブ週報

2021-2022 年度 RI テーマ



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第 2780 地区 ガバナー 田島 透
第 3 グループガバナー補佐 椋梨 兼彰



- 創 立 / 昭和 29 年 6 月 3 日
- 第 68 代 会長 / 吉川 栄紀 幹事 / 廣島 純
- 事務所 / 藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204 TEL : 0466-25-4000 FAX : 0466-26-9292 E-mail : info@fujisawa-rotary.com
- 例会日 / 毎週水曜日 12:30~13:30
- 例会場 / 湘南クリスタルホテル TEL : 0466-28-2111

NO. 18 第 3250 例会 2022 年 4 月 13 日 天候 晴れ時々曇り

ロータリーソング「奉仕の理想」
「四つのテスト」 大野木 加代子 会員

《ゲスト・ビジターの紹介》

- 卓話ゲスト：尾中 香尚里 様
(元毎日新聞編集委員)
(紹介者：大野木 会員)
- ゲスト：佐々木 俊二 様
(かながわ信用金庫/鈴木魁夷のご後任)
- 出水澤 紀子 様
(「ふじさわびと」編集チーフ)
(紹介者：大野木 会員)
- ビジター：藺 信雄 様 (平塚湘南 RC)

《ZOOM 出席者》

勝又 茂成 会員

《入会式》

株式会社北村商事代表取締役
北村 雪江 様
(推薦会員：小河静雄会員)

出席報告

()内は計算に用いた会員数
[]内は ZOOM 出席者



小河会委員より北村様をご紹介



例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メイクアップ 会員数	修正出席者数	修正出席率
3月 21日	42(41)名	14名	27名	34. 15%	4名	18名	42. 86%
4月13日	43(42)名	27+[2]名	13名	73. 81%			

《会長報告》

多くのゲスト、ビジターをお迎えしております。
ありがとうございます。
急に陽気がよくなって参りました。私は本日半袖です。仕事柄、街角の花も気になります。満開の桜が散りまして、ハナミズキやつつじ、藤の花が先始めました。藤は藤沢市の市火花です。季節は夏に向かって動いております。昨日は、次年度の会長幹事の顔合わせ会がありました。グループの新会員の親睦会も予定されております。ロータリーも少しづつ動き出しました。本日もよろしくお願ひ致します。

《幹事報告》

- ・ 4月6日の理事役員会報告
 - 1. 北村雪江様の入会を承認
 - 2. 退会会員承認
林尚子会員、鈴木隆一会員が異動のため
 - 3. 立法案（決議案）の件
反対表明なし
 - 4. 2520 地区（仙台）地区大会への参加
棕梨 AG と大小原前会長が出席
クラブより登録費を拠出
 - 5. ウクライナ難民支援の件
クラブと区別し参るより、@1,000×会員数で拠出
 - 6. 会員ご家族のご入園ご入学、ご卒業のお祝い
範囲 お孫様まで
例年通り 3,000 円の図書カードをお贈りする
 - 7. 5月の青少年奉仕月間、藤沢市みらい創造財団へ例年どおり、10万円を寄付
5月の例会に財団理事長にお越しいただき贈呈する。財団の事業と寄付金の使用用途についてお話いただく。
大野木会員より、理事ご来会の日程を打診していただく
 - 8. 夜間例会の件
5月25日を予定 詳細は親睦委員会で詰めていただく
- その他
「ロータリーの友」に国際ロータリーとしてのウクライナとロシアへの声明が出されている。ウクライナとロシアのロータリー活動に

についても記載がある。ロータリー財団が ウクライナ支援の窓口を開設。

- ・ 4月29日の地区研修・協議会、出席者のバス乗車希望をうかがっております。お返事がまだの方は、事務局にお知らせください。

《ガバナー補佐報告》

本日、第9G（小田原）のロータリー奉仕デーに開催しております。この後、参加して参ります。本日の入会式に田島ガバナーが出席を希望していたのですが、ロータリー奉仕デーと重なってしまいました。おめでとうございますとのことです。

今週末、16、17日で仙台の地区大会へ大小原会員と出席して参ります。先日の地震の影響が心配されましたが、新幹線が復旧しましたので、よかったです。

6月11日の第2、第3グループ共同開催のチャリティーコンサートのチケット、子ども用中高生以下のチケットも準備できました。事務局で販売しております。若い人にもお越しいただけるようにしております。よろしくお願ひ致します。この Limerick（リメリック）というグループ、先日「ハモネプ」にテレビ出演しましたブルーレイの録画がありますので、ご覧になりたい方は、事務局にお申し付けください。

《お祝い》

- | | | | |
|-------|-------|--------|----|
| 会員誕生日 | 2月4日 | 岩田 和 | 会員 |
| | 3月2日 | 星谷 けい子 | 会員 |
| | 4月16日 | 鈴木 大次 | 会員 |



会員ご家族のご入園ご入学・ご卒業のお祝い

今井 重信 会員 お孫様 桜里香さん 高校ご入学
岩田 和 会員 お孫様 里楽さん 高校ご入学
岡崎 記久子 会員 お孫様 拓海さん 大学ご入学
崎山 直夫 会員 お子様 優海さん 大学ご入学
鈴木 大次 会員 お子様 瑠子さん 小学校ご入学
野口 捷代 会員 お孫様 さらさん 小学校ご入学
お孫様 光貴さん 幼稚園ご入園
廣島 純 会員 お子様 英恵さん 中学校ご入学
お子様 詩恵さん 中学校ご入学
星谷 けい子 会員 お孫様 柚希さん 小学校ご入学
お孫様 珠希さん 小学校ご入学
和田 秀昭 会員 お子様 元基さん 大学ご卒業



《スマイル報告》

吉川 栄紀 会長

本日の様に例会が当たり前に行えることに感謝致します。又本日の卓話ゲスト尾中様、ゲストの佐々木様、出水澤さま、ビジター湘南平塚 RCの菌様、ありがとうございます。そして入会された北村様、これからよろしく願いいたします。

岩田 和 会員

休みが多くてすみません。

棕梨 兼彰 会員

佐々木様、出水澤様、菌様、本日はようこそ。尾中様、本日は卓話よろしく願い致します。北村様、入会していただき感謝です。

小河 静雄 会員

尾中さん卓話楽しみにしています。本日から北村さんよろしく願いします。早退します・・・。

廣島 純 会員

やっと中学1年生になりました。お祝いありがとうございます。

大貫 美則 会員

先週は誕生日のお祝いを頂き、ありがとうございました。

鈴木 大次 会員

尾中様、出水澤さま、本日は楽しみにしております。

北村様、宜しく願い致します。

お祝をありがとうございます。親子共々、精進致します。

深谷 大樹 秋院

先週、結婚祝いを頂き、ありがとうございました。これからも夫婦仲良くしていきます。

和田 秀昭 会員

結婚記念日と長男のお卒業祝いありがとうございます。

崎山 直夫 会員

水族館 OPEN の1年前に生まれた子が大学に入ります。早いものですね。お祝いありがとうございます。

岡崎 記久子 会員

尾中さん、卓話よろしく願いします。楽しみです。出水澤さん、ようこそ。

《卓話》

「非常事態のリーダーシップ」

元毎日新聞編集委員

尾中 香尚里 様

(紹介者：大野木 加代子 会員)



3年前からタウン誌「ふじさわびと」で編集スタッフをしています。それまでは毎日新聞社で記者をしていました。政治部で野党（民主党など）取材の経験が長かったのですが、民主党は政権与党だった2011年、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故に直面。私は政治部デスクとして、当時の菅直人政権の対応を取材しました。

退職後の2020年以降、新型コロナウイルス感染症の安倍晋三政権の対応を見て、震災当時の菅政権との違いを感じました。二つの危機に両政権がどう対応したかを比較した著書「安倍晋三と菅直人 非常事態のリーダーシップ」（集英社新書）を、昨年秋に出版しました。今日はこの本の内容から一部をご紹介します。

①危機を大きく見るか、小さく見るか

まず「菅政権は危機を大きく見た。安倍政権は危機を小さく見た」ということです。

震災と原発事故の時、菅政権は常に「最悪のシナリオ」を考えていました。例えば、菅首相は震災発生の翌日に自らヘリで原発を視察し、さらに視察を踏まえて被災地に自衛隊10万人を投入しました。

原発は津波をかぶって燃料を冷やせなくなり、原子炉が大爆発して広島、長崎への原爆投下を上回る大きな被害が出る恐れが出ていました。ところが、菅首相が東電や経産省に原発の状況を聞いても、誰も答えられません。住民をどこまで避難させるべきか判断できないと考えた菅首相は、現地の所長と直接話すため、やむなく自ら原発に飛びました。

この視察で上空から津波被害の悲惨さを目の当たりにした菅首相は、すぐに「自衛隊10万人を被災地に送る」と決めました。自衛隊全体の約半分を動かす大きな判断でした。野党だった自民党は「中国やロシアに対する国防が手薄になる」と批判しましたが、菅政権は大規模な自衛隊投入に踏み切りました。

一方、コロナ禍での安倍政権は、コロナ禍が最初に中国で発生したことから「ウイルスを日本に入れなければ大丈夫」と考え、入国制限などの「水際対策」にこだわりました。

しかし、日本と中国は普段から人の往来が盛んです。日本にもすでにウイルスが入っている可能性は予測できたはずですが。安倍政権はこうした「最悪の事態」を想定しなかったため、国内での感染拡大を見越した対策を十分に打てず、国内で感染者が見つかって以降、

必要な検査が受けられなかったり、マスクが足りなくなったりなど混乱が起きてしまいました。

その後安倍政権は、感染拡大を止めるため緊急事態宣言を発令しましたが、すぐに宣言を解除しようしたり、感染が再拡大してもなかなか宣言を出さなかったりしました。経済への影響を心配したためでしたが、結果として感染拡大が長引き、かえって経済に悪影響を与えたとの見方もあります。

それぞれの政権の判断が正しかったか否かは、国民が評価すべきことですが、総じて「菅政権は危機を大きく、安倍政権は小さくみた」ということは言えると思います。

②「強権発動」にどのような姿勢で臨んだか

緊急事態には、政府が強権を発動して国民の権利を侵害することもあります。その時に政府がどんな姿勢で臨むかという点でも、菅政権と安倍政権には違いがありました。

震災の時、菅政権は相当の強権を発動しました。原発から約20キロ圏内に住む住民に、家を離れて避難することを強制しました。民間企業の東京電力に政府が乗り込み、事故対応を指揮しました。

しかし、これらは法律に書かれた首相の権限に基づく措置でした。そして、政府の強権発動によって被害を受けた国民に対し、政府は東電とともに、避難指示を出した被災者への賠償を行いました。

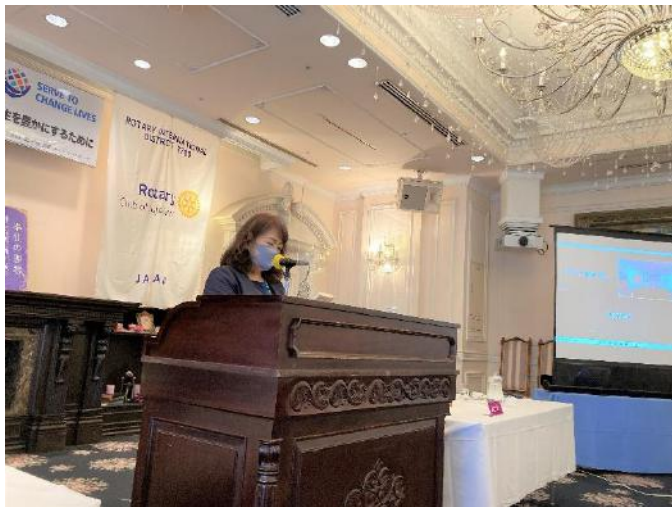
一方、コロナ禍で安倍政権が出した「一斉休校」「大規模イベント自粛」などは、法的根拠がありませんでした。補償に関する規定がないため、多くの関係者が泣き寝入りを余儀なくされたはずですが。

一方で安倍政権は、法律に基づく「緊急事態宣言」は出し渋りました。法律に基づいて政府が国民の私権を制限した場合、補償などの責任を負うのを避けたのではないかとみられています。

ロシアによるウクライナ侵攻という非常事態を受けて「憲法を改正して緊急事態条項をつくり、非常事態における政府の権限を強化しよう」という議論があります。でも、非常事態の時に政府が国民の生命と暮らしを守るために一定の私権制限を行えることを定めた法律は、実はいくつもあります。

今大切なのは、時間のかかる憲法改正より「すでに法律で定められている政府の権限を使い倒すこと」だ

と考えます。強権を発動する場合も、法律に基づいて行うことが、民主主義国家における非常事態のリーダーシップだと考えます。



大野木会員より尾中様の紹介



尾中様の著書

「安倍晋三と菅直人 非常事態のリーダーシップ」



吉川会長より謝辞



本日のお料理

